

Pick Up!



中野市地域支え合い商品券の 使用期限が迫っています

問 新型コロナウイルス感染症生活支援対策室 対策係
☎(22)2111(内線481)

市内全世帯に配布しました「中野市地域支え合い商品券」の使用期限が迫っています。期限を過ぎた商品券は一切ご利用いただけません。まだ使用していない商品券が残っている場合は、使い忘れの無いようご注意ください。

商品券の使用期限 12月31日(木)

※2021年1月1日(金)以降、商品券は使用できません。
※利用可能店舗は、市公式ホームページをご覧ください。



◀利用可能店舗

ページ

03 キラリ★中野のチカラ

04 特集
新たな市政、はじまる。

06 池田前市長退任あいさつ

07 新型コロナウイルスの「いま」
についての知識

08 中野市この1年

10 信州なかの音楽祭2020 情報

11 2020年度上半期財政状況

12 健康広場なかの

14 生き生き！健康メモ/保険だより

15 市民リレー元気の輪/シニア情報

16 子育て案内

17 子育て支援センター行事予定/
わが家のアイドル

18 まちかどトピックス

20 暮らしの情報掲示板

26 心をひらく

28 文化なかの

30 図書館情報

31 博物館だより

32 夢/広報クイズ

※「信州なかの日和」・「市長のわくわくレポート」はお休みです。

※掲載している行事や講座などは、中止・延期することがあります。詳しくは市公式ホームページなどでご確認ください。

今月の表紙

11月15日に中野市長選挙の投・開票が行われ、湯本隆英さんが初当選し、11月24日、湯本市長が初登庁しました。市民や市職員に拍手で迎えられ、新市政がスタートしました。



人口の動き

面積：112.18km²
人口：42,097人 (-34)
男：20,396人 (-10)
女：21,701人 (-24)
世帯数：15,957戸 (-13)

【2020年11月1日現在】

()は前月比。

2015年国勢調査を基に推計。

10言語翻訳・読み上げ機能で
広報なかのをもっと身近に。

カタログポケット



中野市公式
ホームページ



中野市役所広報
facebook



中野市公式
インスタグラム



中野市議会

令和2年12月定例会の会期日程
11月30日(月)～12月15日(火)
市政一般質問
12月7日(月)、8日(火)、9日(水)



地域の未来を照らすみなさんを紹介します。

キラリ★中野のチカラ No. 84



ものづくりを通じて
地域全体がハッピーになれる
仕組みを作りたいですね

-Profile-

こやまてつお

上田市出身。信州大学経営大学院経営学修士や経済産業省認定高度情報処理技術者などの資格を持つ。前職はシステムエンジニアで、定年を迎える前に退職し2015年に(株)クラインベルクを創業した。木製品の製造・販売を主に行い、会社事務所を草間地区に置く(近日中に移転予定)。コンピュータ制御によりレーザー加工機を操作し、木材や樹脂などに精密な模様などを彫刻し、他では真似できない製品を取り扱う。中野市シンボルマーク活用事業者に配布している精巧な木版プレートを作成し、地域ブランド向上に貢献している。

問 koyama@kleinberg.jp



▲精密に透かし彫りされている化粧箱



▲レーザー加工機



株式会社クラインベルク
代表取締役社長

小山 哲生



▲クラインベルクホームページ

「ものづくりで起業するにあたり、多くの工業機械の中から、レーザー加工機に着目しました。世の中になく、初めて見た人が驚くような製品を作りたいという思いで取り組んでいます。」

上田市出身の小山さんが、中野市に拠点を置く理由は、起業先の市町村を検討する際、中野市が一番親身になって相談ののってくれたからだという。唱歌が好きで、高野辰之先生に感銘を受けているとも話してくれた。

「現在は、天然木を使った名札や表札など製造・販売しています。コンピュータ制御により、人間の手では極めて困難な百分の一の精度での彫刻が可能です。複雑な模様や着色加工、透かし彫りなどもできるので、ぜひ手に取って目を凝らしていただきたいですね。また、木材は基本的に国産を使い、中でも長野県産を使うようにしています。製品と地域と一緒に発信しブランド化することで、地域の方に受け入れてもらいやすいことや、全国に発信する強みになると考えています。」

「今後は、システムエンジニアの経験を生かし、『IT』と『クラフト』、『農業』を組み合わせた新たな事業を構想しています。例えば、市内の自然環境を使い、ここでしかできない事業を展開したいですね。また、現在も製品の製造行程の一部を地域の福祉施設などに委託していますが、日本や世界で売れるものを作って、製造に関わる方ももちろん、ものづくりを通じて地域全体がハッピーになれる仕組みを作ることができればと考えています。」